

# 平成26年度飯能市の財務4表(普通会計)

地方公共団体の公会計制度は、その年度にどのような収入があり、それをどのように使ったかといった現金の動きがわかりやすい反面、市が整備してきた資産や、借入金などの負債といったストック情報や、行政サービス提供のために発生したコスト情報が十分ではありませんでした。

企業会計的な手法(発生主義・複式簿記)を取り入れ、それらの情報の不足を補い、関連団体等も含めた連結ベースでの財務4表を整備し、公表するのが、国が進める「新地方公会計制度」です。

## ○新地方公会計制度の概要

地方公共団体は、国(総務省)が示した2つの公会計モデル(「基準モデル」・「総務省方式改訂モデル」)のうちいずれかを選択し、一般会計だけでなく、特別会計や関連団体までを含めた連結ベースの財務4表を整備する。

## ○飯能市の取り組み

- 1 早期に資産・債務情報を把握するため、「総務省方式改訂モデル」を採用しています。
- 2 資産(土地・建物・道路・備品など)は、時価で評価しています。

## 貸借対照表

平成27年3月31日現在  
( )は前年度対比

「貸借対照表」とは、市民の皆さんが利用する市の施設(財産)、市の所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金などが、どのくらいあるのかを示したもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成されています。左右の合計額が等しいこと、現時点の資産と負債などの残高(=バランス)を示していることからバランスシートとも呼ばれます。

<b>○資産</b> <b>229,888,727千円</b> <b>(△20,172,184千円)</b>	<b>○負債</b> <b>36,266,663千円</b> <b>(△118,786千円)</b>
市が所有している財産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。 内訳 ・公共資産 217,746,926千円 (△20,549,177千円) 道路、公園、学校、庁舎など ・投資等 7,652,145千円 (+174,639千円) 基金、出資金、長期延滞債権など ・流動資産 4,489,656千円 (+202,354千円) 現金、預金、財政調整基金、市税未収金など うち歳計現金 1,589,722千円(△193,593千円)	借入金(市債)や将来の職員の退職金など、将来世代の負担で返済していく債務です。
<b>○純資産</b> <b>193,622,064千円</b> <b>(△20,053,398千円)</b>	過去及び現世代が既に負担して、支払いが済んでいる正味の資産です。市の資産全体のおよそ84%を占めています。

計 229,888,727千円  
(△20,172,184千円)

計 229,888,727千円  
(△20,172,184千円)

普通会計財務4表から、このようなことがわかります。

	( )は前年度対比
○市民1人あたりの資産	2,849,601円 (△234,812円)
○市民1人あたりの負債	449,546円 (+836円)
○市民1人あたりの純資産	2,400,055円 (△235,018)
○社会資本形成の過去及び現世代負担比率	88.9% (△0.8ポイント)
○社会資本形成の将来世代負担比率	12.1% (+1.6ポイント)
○資産老朽化比率	35.7% (△26.9ポイント)
○受益者負担比率	2.5% (△0.1ポイント)

## 行政コスト計算書

平成26年4月1日～平成27年3月31日  
( )は前年度対比

市の行政活動は、福祉や教育などでの人的サービスや給付サービスの提供など、資産形成につながらない行政サービスが大きな比重を占めています。そのためのコスト(原価・費用)がいくらかかっているかを示したものです。

平成26年度1年間の飯能市のコスト総額は21,441,005千円(+42,535千円)で、市民1人あたりでは265,773円(+1,884円)です。

<b>経常行政コスト(A)</b> <b>21,441,005千円</b> <b>(+42,535千円)</b>
・人にかかるコスト →職員給与、退職手当など ・物にかかるコスト →物品購入、光熱水費、施設などの修繕費、減価償却費など ・移転支出的なコスト →児童手当や生活保護などの社会保障給付、各種団体への補助金、繰出金など ・その他のコスト →市債の利子など
<b>経常収益(B)</b> <b>544,056千円</b> <b>(△6,428千円)</b>
行政サービスの利用により、市民の皆さんが直接負担する施設使用料や手数料などです。
<b>(差引A-B)純経常行政コスト(C)</b> <b>20,896,949千円</b> <b>(+48,963千円)</b>

## 純資産変動計算書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

市の純資産(正味の資産)が、平成26年度中にどのように増減したかを示したものです。  
平成26年度1年間で、市の純資産は20,053,398千円減少しています。

<b>期首(平成25年度末)純資産残高</b> <b>213,675,462千円</b>
内訳 ・純経常行政コスト ・財源の調達 ・その他
<b>期末(平成26年度末)純資産残高</b> <b>193,622,064千円</b>

## 資金収支計算書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

1年間の市の現金の収入と支出が、どのような理由で増減しているかを、性質別に区分して示したものです。  
飯能市の場合、経常的収支の黒字分を大きな資金が必要となる資産整備やそのための借入金の返済に充てていることがわかります。  
平成26年度1年間で、飯能市の資金193,444千円減少しています。

<b>期首(平成25年度末)資金残高</b> <b>1,783,166千円</b>
内訳 ・経常的収支 3,820,579千円 ・公共資産整備収支 △1,250,267千円 ・投資・財務的収支 △2,424,004千円
<b>期末(平成26年度末)資金残高</b> <b>1,589,722千円</b>